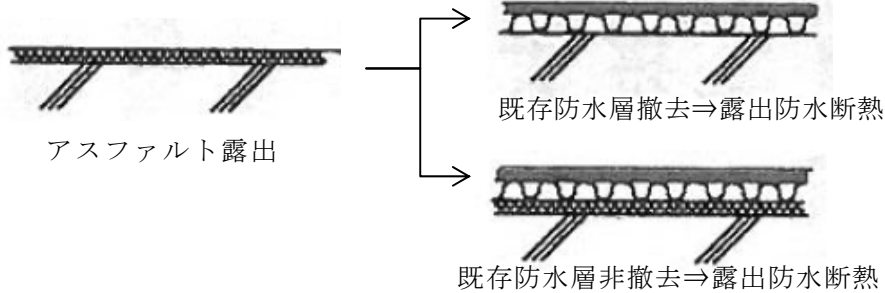
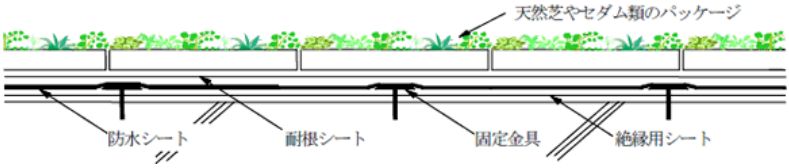


最終更新日 H25.3.1
改修技術 No. 11122101

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	性能の向上
中分類	防水仕様のグレードアップ
技術の名称	防水仕様のグレードアップ工法
改修技術の概要	<p>・ 防水仕様のグレードアップ工法は、以下のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 断熱層の追加</li> <li>● 防水仕様の向上（耐用年数の向上、緑化、歩行可化）</li> <li>● 金属屋根などによるカバーリング</li> <li>● 屋上緑化（美観向上、ヒートアイランド現象の防止など）</li> </ul> <p>・ <u>断熱層の追加の例（アスファルト露出防水）</u></p> <p>・ 改修後の性能：断熱性の向上、熱劣化に対する躯体の保護</p>  <p>（出典：建築改修工事監理指針 平成 22 年版（財）建築保全センター）</p> <p>・ <u>防水改修工法の耐用年数向上</u></p> <p>一般的に、かぶせ工法より既存防水層撤去のほうが 20～30% 耐用年数が長い。また、下地の状態、納まり具合、施工技能、施工管理を適切に行い、施工時の季節も適切に選択する必要がある。使用材料は高耐久性、高張力などの性能を有するものを使用する。</p> <p>・ 改修後の性能：耐久性の向上</p> <p>・ <u>屋上緑化</u></p> <p>屋上緑化の際は、防水層の耐根性能や、肥料や防虫剤などの耐薬品性、土壌中のバクテリアに対する耐性も要求される。軽量化・低メンテナンスを図った薄層緑化工法なども開発されている。植物の根が防水層やコンクリートが突き破ることに注意して、中空構造排水板や防根シートを設ける。また重量増加に伴う構造計算のやり直しが必要である。</p> <p>・ 改修後の性能 美観向上、遮熱効果</p>  <p>緑化防水仕様の例 （出典：合成高分子ルーフィング工業会HP）</p>

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	<input type="checkbox"/> 調査・診断技術 <input checked="" type="checkbox"/> 改修技術（ <input type="checkbox"/> 劣化を補修する技術 <input checked="" type="checkbox"/> 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある※
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある※
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある※
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある※
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある※
(補足) ※荷重の増加を許容できる場合			
常にセットで利用される技術	<当技術を適用する前に実施する調査診断技術> ひび割れ調査 (No. 21111101)、脆弱部・内部空洞調査 (No. 21111102)、圧縮強度推定 (No. 21111103)、鉄筋の非破壊調査 (No. 21111104)		
技術が適用される建物の部位	<input checked="" type="checkbox"/> 共用部分 （ <input type="checkbox"/> 躯体・外壁 <input checked="" type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 建具 <input type="checkbox"/> 設備・配管等 <input type="checkbox"/> その他共用部） <input type="checkbox"/> 専有部分 （ <input type="checkbox"/> 設備・配管 <input type="checkbox"/> その他専有部分） （設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 （ ） <input type="checkbox"/> 注意すべき主な法令（ ））		
団地で適用した場合のメリット	<input type="checkbox"/> 住棟まわりの土地が利用できること（仮設以外）（ ） <input type="checkbox"/> まとまった土地が利用できること（仮設以外）（ ） <input type="checkbox"/> 住宅の数が多く密度が高い（ ） <input type="checkbox"/> 特定の設備があること（ ）		
足場の設置が必要	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 （工事の内容・状況によっては該当しない場合がある ）		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 （ ）	
	一時的な影響が発生	<input type="checkbox"/> 断水などライフラインが一時的に利用不可 <input type="checkbox"/> 振動 <input checked="" type="checkbox"/> 騒音 <input type="checkbox"/> 粉塵 <input type="checkbox"/> 臭気 <input type="checkbox"/> その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 （ ）	
	工事後に続く影響が発生	<input type="checkbox"/> 専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限（ ） <input type="checkbox"/> 日照・採光等への影響（ ）	
当該技術が利用される工事	<input checked="" type="checkbox"/> 計画修繕工事（ <input type="checkbox"/> 劣化の補修 <input checked="" type="checkbox"/> 性能の向上） <input type="checkbox"/> 耐震改修工事（ <input type="checkbox"/> 耐震性の向上 <input type="checkbox"/> 他の性能の向上）		
技術的境界	—		
参考資料	技術情報	・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成22年版」（財）建築保全センター ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築改修工事監理指針 平成22年版」（財）建築保全センター	
	価格情報	・「マンション Re」（一財）経済調査会	